

第2 外国語深化科目

1. 追求する人間像

わが国の教育は弘益人間の理念の下、全ての国民をして、人格を陶冶し、自主的な生活能力と民主市民として必要な資質を備えしめ、人間らしい生を営為せしめ、民主国家の発展と人類共栄の理想を実現するのに寄与せしめることを目的としている。

このような教育理念を土台として、この教育課程が追求する人間像は以下のとおりである。

- ア. 全人的成長の基盤の上に、個性の発達と進路を開拓する人間
- イ. 基礎能力の土台の上に、新たな発想と挑戦で創意性を発揮する人間
- ウ. 文化的素養と多元的価値に対する理解を土台に、品格ある生を営む人間
- エ. 世界と相通じる市民として、配慮と分かち合いの精神で共同体の発展に参与する人間

2. 高等学校の教育目標

高等学校の教育は、中学校教育の成果を土台に、生徒の適性と素質に合う進路開拓能力と、世界市民としての資質涵養に重点を置く。

- (1) 成熟した自我意識を土台に、多様な分野の知識と技能を身につけて進路を切り開き、生涯学習の基本力量と態度を備える。
- (2) 学習と生活において新たな理解と価値を創出することができる批判的、創意的思考力と態度を身につける。
- (3) 韓国の文化を享有し、多様な文化と価値を受容できる資質と態度を備える。
- (4) 国家共同体の発展のために努力し、世界市民としての資質と態度を育てる。

3. 内容の体系

項目		内容
言語技能		<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目の性格により、聞く、話す、読む、書く活動のうち、一部の技能を強化して提示 ・ 言語により、高等学校一般教科・外国語教育課程の「意思疎通基本表現」を参考にし、深化・発展
言語材料	素材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者の関心、必要性、知的好奇心などを考慮して選定 ・ 学習者の日常生活と関連した多様な内容を含む ・ 外国の文化に関する客観的な内容の提示 ・ 世界人としての資質涵養に必要な内容
	発音および綴り（文字）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目別発音および綴り（文字）に関する特記事項
	語彙	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目別学習単語数
	文法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目別に規定された文法事項
	意思疎通基本表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校一般教科・外国語教育課程の「意思疎通基本表現」を積極的に活用

25. 日本語会話 I

1. 目標

「日本語会話 I」は、聞き、話す能力を集中的に育成する科目であり、具体的な目標は以下のとおりである。

- ア. 意思疎通基本表現を聞き、適切な発音、イントネーション、アクセントで話すことができる。
- イ. 文化的内容が含まれたモデル対話の語調を聞き、後について話すことができる。
- ウ. 日本語のコミュニケーション機能遂行に関連した表現を用いて話すことができる。
- エ. 日常生活と関連した多少長い日本語を聞いたり読んだりして、話すことができる。
- オ. 意思疎通基本表現を言語行動文化に合わせて、自らの考えを話すことができる。
- カ. コミュニケーションの必要性に気づき、能動的な態度で話す学習に参加することができる。

2. 内容

ア. 言語技能

- (1) 日常生活で用いる易しい日本語を理解し、表現する。
- (2) 日本人の日常言語文化生活について、状況に合うように表現する。
- (3) 対話、面談、討論などの双方向コミュニケーション活動に必要な表現を聞き、話す。

イ. 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本人の日常生活文化、伝統文化などについて聞き、話すのに助けとなるものとするが、以下の項目を参照し、「日本語会話 I」科目のレベルに合う内容を選別して構成する。

- ①言語行動および非言語行動に関する内容：表現的特性、あいづち、手ぶり、身ぶりなど
- ②家庭・学校・社会生活に関する内容：あいさつ、家庭内の生活文化、サークル活動、貨幣など
- ③交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情など
- ④衣食住の文化に関する内容：衣服の種類、食べ物の種類、食事時のマナー、住

宅事情など

- ⑤環境に関する内容：自然保護など
- ⑥余暇の利用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑦危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など
- ⑧地域文化に関する内容：主な地名、観光名所、庭園など
- ⑨年中行事に関する内容：「おしょうがつ、ひなまつり、おぼん、まつり」など
- ⑩伝統芸術に関する内容：「かぶき、さどろ」など
- ⑪遊びの文化に関する内容：「はなみ、はなび」など
- ⑫大衆文化に関する内容：マンガ、アニメーションなど
- ⑬通過儀礼に関する内容：誕生日、入学など

(イ) 内容の構成にあたっては以下の事項に留意する。

- ①高等学校一般科目「日本語 I」と連係して構成する。
- ②学習者の興味、必要、知的水準などを考慮して、多様な文章を提示する。
- ③実際の生活において用いられているものとするが、最近の資料を提示する。
- ④普遍的で客観的な内容を提示するが、韓国の文化と比較が可能となるようにする。
- ⑤文章の難易度を段階的に構成し、創意性と個人の人間性を考慮する。

(2) 発音および文字

- (ア) 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- (イ) 文字はひらがなとかたかな、漢字を基本とする。
- (ウ) かなは「現代かな遣い」に従う。
- (エ) 表記用漢字は日本の学習用漢字の範囲内で用いるが、人名や地名などの固有名詞に用いる漢字は、例外とする。
- (オ) 韓国語のかな表記は、「国語(韓国語)のかな文字表記法」に従う。ただし、慣用的に用いるものは許容することができる。

(3) 語彙

高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 II】に示された基本語彙を中心に 1,000 語程度を用いるが、固有名詞は例外とする。

(4) 文法

- (ア) 高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」と【別表 II】に示された「基本語彙表」に用いられた文法事項を参考とする。
- (イ) 日本語教育で用いられる現代日本語文法を身につける。

(5) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は、コミュニケーション能力を効率的に養えるようにするものであるが、高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」を活用する。

3. 教授・学習方法

- ア. 授業はなるべく日本語で進めるようにする。
- イ. 他の言語技能との統合活動を志向する授業を計画する。
- ウ. 正確さよりはメッセージの適切さに重点を置いて授業を計画する。
- エ. 学習者の興味と自律性を最大限反映し、学習意欲を高める授業を計画する。
- オ. 多様な学習資料を利用して、創意性と個人の人間性を高める授業を計画する。
- カ. タスク中心学習などの、小グループ構成員同士が協力して学習することが可能な授業となるよう、授業方法を活用する。
- キ. 聞いて話す、読んで話すなど、2つまたは3つの言語技能を連係する方法を活用する。
- ク. 情報のギャップなどを利用して、学習者が積極的に参加する授業となるようにする。
- ケ. 反復練習が可能となるよう授業を構成するが、マルチメディア教具などを積極的に活用する。
- コ. 学習者の参加度と興味を高めるクイズ、ゲーム、歌などを活用する。
- サ. 情報のギャップを利用するロールプレイ練習、アンケート、インタビュー、シミュレーションなどを活用する。
- シ. 文化理解に効果的な絵、ビデオ、動画、情報通信技術（ICT）などを活用する。

4. 評価

ア. 評価指針

- (1) コミュニケーション能力に重点を置いて評価する。
- (2) 表現の適切さと効率性を根拠として、コミュニケーション能力を測定する。
- (3) 言語技能を2つ以上連係して評価することができる。
- (4) 妥当性と信頼性、客観性を備えた評価となるようにする。
- (5) 参加度、学習発達過程などを観察して評価する。
- (6) 評価結果は個別の指導および学習に活用するようにする。
- (7) 評価結果は次の教授計画に反映するようにする。

イ. 評価方法

- (1) コミュニケーション機能の状況を与えて発話させた後、発音とイントネーション、アクセントなどを評価する。
- (2) 文化的内容が含まれたテーマを与えて発表させ、録音した後に評価する。
- (3) 教師やグループ別のインタビュー、アンケートやロールプレイ練習をさせ、評価する。
- (4) 動画や録音資料を提示し、内容を要約して話すことを評価する。
- (5) 日常生活と関連した絵や写真を見て描写させ、評価する。
- (6) 文章を提示して、読んで要約し、整理して話すことを評価する。
- (7) コミュニケーション活動と言語行動文化の理解に対する積極的な参加態度を評価する。

26. 日本語会話 II

1. 目標

「日本語会話 II」は「日本語会話 I」を深化して、聞き、話す能力を集中的に育成する科目であり、具体的な目標は以下のとおりである。

- ア. 日本語のコミュニケーション機能遂行に関連した表現を、自然に話すことができる。
- イ. 日常の対話と関連した日本人の言語行動を知り、話すことができる。
- ウ. 複数の人の前で、自身の考えを日本語で自信を持って話すことができる。
- エ. 相手側のことばをよく聞き、対話の進行を順調に導くことができる。
- オ. 日常のコミュニケーション遂行の過程で用いられる日本語を、騒音とともに聞き分けることができ、ネイティブスピーカーが聞き取れるように話すことができる。
- カ. 話す学習の必要性に気づき、積極的に話す学習に参加する態度を持つ。

2. 内容

ア. 言語技能

- (1) 「日本語会話 I」科目に示された技能を中心とするが、「日本語会話 II」科目に合う技能を追加で選別し、提示する。
- (2) ことばを聞いて理解し、対話、面談、討論などの練習が可能となるよう、技能を構成する。

イ. 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本人の日常生活文化、伝統文化などについて聞き、話すのに助けとなるものとするが、以下の項目を参照し、「日本語会話 II」科目のレベルに合う内容を選別して構成する。

- ①言語行動および非言語行動に関する内容：表現的特性、あいづち、手ぶり、身ぶりなど
- ②家庭・学校・社会生活に関する内容：訪問時のマナー、サークル活動、プレゼント、季節のあいさつなど
- ③交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情など
- ④衣食住に関する内容：衣服の種類、食べ物の種類、食事時のマナー、住宅事情

など

- ⑤環境に関する内容：ゴミの分別収集、リサイクルなど
- ⑥余暇の利用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑦危機管理に関する内容：地震、放射能、その他の自然災害など
- ⑧地域文化に関する内容：主な地名、観光名所、庭園など
- ⑨年中行事に関する内容：「おしょうがつ、ひなまつり、おぼん、まつり」など
- ⑩伝統芸術に関する内容：「のう、きょうげん、いけばな」、音楽など
- ⑪遊びの文化に関する内容：「はなみ、はなび、カルタとり」など
- ⑫マスメディアおよび大衆文化に関する内容：新聞、放送、マンガ、アニメーション、映画など
- ⑬通過儀礼に関する内容：誕生日、入学、結婚、成人式、葬式など

(イ) 内容の構成にあたっては以下の事項に留意する。

- ①高等学校深化科目「日本語会話Ⅰ」と連係して構成する。
- ②学習者の興味、必要性、知的水準などを考慮して、多様な文章を提示する。
- ③実際の生活において用いられているものとするが、最近の資料を提示する。
- ④普遍的で客観的な内容を提示するが、韓国の文化と比較が可能となるようにする。
- ⑤個人の創意性と人間性を涵養することのできる内容を、段階的に構成する。

(2) 発音および文字

- (ア) 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- (イ) 文字はひらがなとかたかな、漢字を基本とする。
- (ウ) かなは「現代かな遣い」に従う。
- (エ) 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で用いるが、人名や地名などの固有名詞に用いる漢字は、例外とする。
- (オ) 韓国語のかな表記は、「国語(韓国語)のかな文字表記法」に従う。ただし、慣用的に用いるものは許容することができる。

(3) 語彙

「日本語会話Ⅰ」科目で用いられた語彙を中心に 1,600 語程度を用いるが、固有名詞は例外とする。

(4) 文法

「日本語会話Ⅰ」科目に準ずるが、文体は親しさをこめた表現、縮約表現など様々な言語形式を追加で扱うことができる。

(5) 意思疎通基本表現

「日本語会話 I」科目に準ずるが、必要に応じて新たなタイプのコミュニケーション機能とその表現を追加で扱うことができる。

3. 教授・学習方法

- ア. 授業はなるべく日本語で進めるようにする。
- イ. 他の言語技能との統合活動を志向する授業を計画する。
- ウ. 正確さよりはメッセージの適切さに重点を置いて授業を計画する。
- エ. 学習者の興味と自律性を最大限反映し、学習意欲を高める授業を計画する。
- オ. 効果的な表現ができるよう、言語戦略などを立てて学習活動を計画する。
- カ. タスクまたは問題中心学習を通じた協同学習により、創意性と個人の人間性を涵養する。
- キ. 聞いて話す、読んで話すなど、2つまたは3つの言語技能を連係する方法を活用する。
- ク. 視聴覚教具・教材資料などを提示して、思考と表現の活動を容易にする。
- ケ. 日本語で授業を進めるが、状況によっては韓国語を用いることができる。
- コ. 授業の効果と効率性のため、反復練習などでマルチメディア教具などを積極的に活用する。
- サ. 学習者の参加度と興味を高めるクイズ、ゲーム、歌などを活用する。
- シ. 情報のギャップを利用するロールプレイ練習、アンケート、インタビュー、シミュレーションなどを活用する。
- ス. 文化学習に効果的な絵、ビデオ、動画、情報通信技術（ICT）などを活用する。

4. 評価

ア. 評価指針

- (1) 文法的な正確さより、表現の適切さにより重点を置いて評価する。
- (2) 創意的な探究活動を奨励する評価基準を立てるようにする。
- (3) 聞いて話す、読んで話すなど、2つ以上の言語技能を連係して評価する。
- (4) 客観的評価のために、評価基準を事前に明確に設定する。
- (5) 参加度、学習発達過程などを観察し、評価に反映する。
- (6) 創意性と個人の人間性教育の要素に応じた授業過程を観察し、評価に反映する。
- (7) 評価結果は個別の指導および次の教授計画に反映する。

イ. 評価方法

- (1) コミュニケーション機能の状況を与えて発話させた後、発音とイントネーション、アクセントなどを評価する。
- (2) 日常的な簡単なテーマを与え、決められた時間内に発表し、録音して評価する。
- (3) 教師やグループ別のインタビュー、アンケートやロールプレイ練習をさせ、評価する。
- (4) 提示された文章を読み、要約したり整理したりして話させ、評価する。
- (5) 絵や写真を見て描写させ、評価する。
- (6) 録音された資料や動画を提示し、内容の要約、発表などを評価する。
- (7) コミュニケーション活動と言語行動文化の理解に対する積極的な参加態度を評価する。

27. 日本語読解 I

1. 目標

「日本語読解 I」は、日本語で作成された文章を読み、理解する能力を養う科目であり、具体的な目標は以下のとおりである。

- ア. 実生活の多少長い文において、かなと漢字を読むことができる。
- イ. 基本語彙に用いられた漢字を、文の中で日本語で読むことができる。
- ウ. 意思疎通基本表現と関連した文を自然に読み、その意味が分かる。
- エ. 文化と関連した多少長い文を読み、大体の意味を把握することができる。
- オ. 生活や文化などに関する文章を読み、内容を要約したり、要約した内容を発表することができる。
- カ. 日本のインターネットサイトで情報を検索し、要約することができる。
- キ. 日韓の文化に関する文章を翻訳機で処理した後、不自然な表現を把握することができる。
- ク. 日本語で検索した情報について、真偽を正しく判断する態度を養う。

2. 内容

ア. 言語技能

- (1) 多少長い文において、かなと漢字を読む。
- (2) 基本語彙に用いられた漢字を、文の中で日本語で読む。
- (3) かな漢字かな交じりの多少長い文を読み、理解する。
- (4) 日本語のウェブサイトで文化関連の情報を検索することができる。
- (5) 検索した文化関連の情報を処理して理解する。
- (6) 習得した情報を利用して、コミュニケーションの場面で表現することができる。

イ. 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本人の日常生活文化、伝統文化などの理解に助けとなるものとするが、以下の項目を参照し、「日本語読解 I」科目のレベルに合う内容を選別して構成する。

- ① 言語行動および非言語行動に関する内容：表現的特性、あいづち、手ぶり、身ぶりなど

- ②家庭・学校・社会生活に関する内容：あいさつ、家庭内の生活文化、サークル活動、貨幣など
- ③交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情など
- ④衣食住の文化に関する内容：衣服の種類、食べ物の種類、食事時のマナー、住宅事情など
- ⑤環境に関する内容：自然保護など
- ⑥余暇の利用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑦危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など
- ⑧地域文化に関する内容：主な地名、観光名所、庭園など
- ⑨年中行事に関する内容：「おしょうがつ、ひなまつり、おぼん、まつり」など
- ⑩伝統芸術に関する内容：「かぶき、さどろ」など
- ⑪遊びの文化に関する内容：「はなみ、はなび」など
- ⑫大衆文化に関する内容：マンガ、アニメーションなど
- ⑬通過儀礼に関する内容：誕生日、入学など

(イ) 内容の構成にあたっては以下の事項に留意する。

- ①高等学校一般科目「日本語 I」と関係して開発する。
- ②学習者の興味、必要性、知的水準などを考慮して、多様な文章を提示する。
- ③実際の生活において用いられうるものとするが、最近の資料を提示する。
- ④普遍的かつ客観的な内容を提示するが、韓国の文化と比較が可能となるようにする。
- ⑤原典の出処を明らかにするが、印刷された文字および映像化された文字からなる読解資料も扱う。
- ⑥文章の難易度を段階的に構成し、創意性と個人の人間性を考慮する。

(2) 発音および文字

- (ア) 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- (イ) 文字はひらがなとかたかな、漢字を基本とする。
- (ウ) かなは「現代かな遣い」に従う。
- (エ) 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で用いるが、人名や地名などの固有名詞に用いる漢字は、例外とする。
- (オ) 韓国語のかな表記は、「国語(韓国語)のかな文字表記法」に従う。ただし、慣用的に用いるものは許容することができる。

(3) 語彙

高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 II】の基本語彙を中心に 1,300 語程度を用い

るが、固有名詞は例外とする。

(4) 文法

- (ア) 高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」と【別表 II】に示された「基本語彙表」に用いられた文法事項を参考とする。
- (イ) 日本語教育で用いられる現代日本語文法を身につける。
- (ウ) 文章体を主に用いるが、口語体と縮約形などの文体を提示することができる。

(5) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は、コミュニケーション能力を効率的に養うことができるようにするものであるが、高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」を活用する。ただし、必要に応じて新たなタイプのコミュニケーション機能や表現も追加で扱うことができる。

3. 教授・学習方法

- ア. 読解の目的と文章の種類および類型に応じて、多様な読み方を用いるようにする。
- イ. 読解は、段階別学習に合わせて教授・学習を進めるように計画する。
- ウ. 理解と知識の活性化に関与する漢字読解の量を平均化して、授業を計画する。
- エ. 学習者の興味と自律性および能動的な読解の意欲を高める授業を計画する。
- オ. 文の中で、ひらがなとかたかなおよび漢字を日本語で読むことができるよう、練習する。
- カ. コミュニケーション機能と関連した文の反復読解により、意味を自然に把握する。
- キ. 能動的な授業参加のため、興味深い動機誘発の方法を積極的に活用する。
- ク. お祝いのカード、電子文書など、多様な学習リソースを読解の練習に活用する。
- ケ. 日本語での情報検索に読解能力を活用することで、学習意欲を高める。
- コ. タイトルの利用、文脈の利用、国際共通語の利用、挿絵の利用などといったストラテジーを用いる。
- サ. 情報を探す、内容を予測して読む、文・段落を入れ替えるなどといった資料を活用する。
- シ. 翻訳プログラムを利用して情報を処理し、その適合性を判断する活動を行う。

4. 評価

ア. 評価指針

- (1) 断片的で二義的な文法知識の測定ではなく、文章の意味理解能力を評価する。
- (2) 読解の技能だけでなく読解学習に臨む積極的な態度も評価する。
- (3) 単純な翻訳中心の評価ではなく、タスク中心の評価を行う。
- (4) タスクに応じて、選択型の問題、応答制限型の問題、自由応答型の問題などを適切に選択して評価する。
- (5) 読んで書く、読んで話すなど、2つ以上の言語技能を連係する統合評価を行うことができる。
- (6) 学習者の参加度、学習発達過程などを観察して評価に反映する。
- (7) 日本語による情報検索などで、読解能力の応用力を評価に反映するようにする。
- (8) 評価結果は個別の指導および学習に活用し、次の教授計画に反映するようにする。

イ. 評価方法

- (1) 文章を読み、キーワード、素材、テーマを話させたり書かせたりする。
- (2) 挿絵、表、グラフなどの視覚資料の意味理解を評価する。
- (3) 文章を読み、大意の把握、前後の文脈の推論、簡単な要約などをさせ、評価する。
- (4) 短答型、完成型、空所補充、パズル完成、情報転移型などにより評価する。
- (5) 文章を読み、指示や説明に従って行動させ、評価する。
- (6) タスク活動に臨む学習者の態度を5択型のシートなどで評価する。
- (7) ホームページ、ブログなど、サイバー空間でコメントをつけさせ、その分析を通して質的評価を行う。

28. 日本語読解 II

1. 目標

「日本語読解 II」は「日本語読解 I」を深化し、一般的なテーマおよび日本文化などに関連した文章を読み、理解する能力を集中的に育成する科目である。

「日本語読解 II」の具体的な目標は以下のとおりである。

- ア. 一般的なテーマに関連した文章を読み、要旨を把握することができる。
- イ. 段落が中心になる長い文章を読み、日本語の意味構造を把握することができる。
- ウ. 段落が中心になる長い文章を読み、短く要約することができる。
- エ. 前後の文脈との関係から意味を把握することができる。
- オ. 日本文化と関連した文章を読み、能動的に理解することができる。
- カ. 日本文化と関連した文章を読み、韓国の文化と比較してアイデンティティを確立することができる。
- キ. 時代的要求と関連したテーマの文章を読み、討論することができる。
- ク. 日本語で検索した情報について、能動的な態度でコミュニケーションと連結させることができる。

2. 内容

ア. 言語技能

「日本語読解 I」科目に示された技能を中心とするが、「日本語読解 II」科目に合う技能を追加で選別し、構成する。

イ. 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本人の日常生活文化、伝統文化などの理解に助けとなるものとするが、以下の項目を参照し、「日本語読解 II」科目のレベルに合う内容を選別して構成する。

- ① 言語行動および非言語行動に関する内容：表現的特性、あいづち、手ぶり、身ぶりなど
- ② 家庭・学校・社会生活に関する内容：訪問時のマナー、サークル活動、プレゼント、季節のあいさつなど
- ③ 交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情など

- ④衣食住に関する内容：衣服の種類、食べ物の種類、住宅事情など
- ⑤環境に関する内容：ゴミの分別収集、リサイクルなど
- ⑥余暇の利用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑦危機管理に関する内容：地震、放射能、その他の自然災害など
- ⑧地域文化に関する内容：主な地名、観光名所、庭園など
- ⑨年中行事に関する内容：「おしょうがつ、ひなまつり、おぼん、まつり」など
- ⑩伝統芸術に関する内容：「のう、きょうげん、いけばな」、音楽など
- ⑪遊びの文化に関する内容：「はなみ、はなび、カルタとり」など
- ⑫マスメディアおよび大衆文化に関する内容：新聞、放送、マンガ、アニメーション、映画、ゲームなど
- ⑬通過儀礼に関する内容：誕生日、入学、結婚、成人式、葬式など
- ⑭文学・歴史に関する内容：文学、芸術、歴史、宗教など

(イ) 内容の構成にあたっては以下の事項に留意する。

- ①高等学校一般科目「日本語 I」、「日本語 II」と深化科目「日本語読解 I」と関係して構成するが、最近の資料を提示する。
- ②事理解、推論的理解、批判的理解などの能力を養えるよう、構成する。
- ③学習者の興味、必要性、知的水準などを考慮して、多様な文章を提示する。
- ④読んだ後に、韓国の文化との比較および討論活動が可能となるよう、内容を構成する。
- ⑤原典の出処を明らかにするが、印刷された文字および映像化された文字からなる読解資料も扱う。
- ⑥個人の創意性と人間性を涵養することのできる内容を、段階的に構成する。

(2) 発音および文字

- (ア) 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- (イ) 文字はひらがなとかたかな、漢字を基本とする。
- (ウ) かなは「現代かな遣い」に従う。
- (エ) 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で用いるが、人名や地名などの固有名詞に用いる漢字は、例外とする。
- (オ) 韓国語のかな表記は、「国語(韓国語)のかな文字表記法」に従う。ただし、慣用的に用いるものは許容することができる。

(3) 語彙

高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 II】の基本語彙を中心に 1,800 語程度を用いるが、固有名詞は例外とする。

(4) 文法

- (ア) 高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」と【別表 II】に示された「基本語彙表」に用いられた文法事項を参考とする。
- (イ) 日本語教育で用いられる現代日本語文法を身につける。
- (ウ) 文章体を主に用いるが、口語体と縮約形などの文体を提示することができる。

(5) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は、コミュニケーション能力を効率的に養うことができるようにするものであるが、高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」を活用する。ただし、必要に応じて新たな種類のコミュニケーション機能や表現も追加で扱うことができる。

3. 教授・学習方法

「日本語読解 I」科目に準ずる。

4. 評価

ア. 評価指針

- (1) 二義的で例外的な事項よりは、基本的で重要な事項を中心に評価する。
- (2) 文章を読んで、大意、文章の性格、論理的関係、主題語などを問う評価を行うようにする。
- (3) 単純な翻訳中心の評価ではなく、タスク中心の評価を行うようにする。
- (4) 読んで書く、読んで話すなど、2つ以上の言語技能を連係する統合評価を行うことができる。
- (5) 学習者の参加度、学習発達過程などを観察して評価に反映する。
- (6) 日本語による情報検索などで、読解能力の応用力を評価に反映するようにする。
- (7) 読解の技能だけでなく読解学習に臨む積極的な態度も評価するようにする。
- (8) 評価結果は個別の指導および学習に活用し、次の教授計画に反映するようにする。

イ. 評価方法

- (1) 文章を読み、キーワード、素材、テーマ、含まれた意図などを話させたり書かせたりする。

- (2) 文章を読み、大意、文章の性格、論理的関係などを問う問題に答えるようにする。
- (3) 挿絵、表、グラフなどの視覚資料の意味理解を評価する。
- (4) 選択型、短答型、完成型、空所補充、パズル完成、情報転移型などにより評価する。
- (5) 文章を読み、指示や説明に従って行動させ、評価する。
- (6) タスク活動に臨む学習者の態度を5択型のシートなどで評価する。
- (7) ホームページ、ブログなど、サイバー空間でコメントをつけさせ、その分析を通して質的評価を行う。

29. 日本語作文

1. 目標

「日本語作文」は、日本語で文章を書く能力を養う科目であり、具体的な目標は以下のとおりである。

- ア. 多少長い文のかなと基本語彙に示された漢字を正しく書くことができる。
- イ. かな漢字かな交じりの文をコンピュータに入力することができる。
- ウ. 学習した規則の構造を、多少変化させて書くことができる。
- エ. 提示された単語を用いて、多少長い文を完成させることができる。
- オ. 日本語文の基本構造を理解し、単文で表現することができる。
- カ. コミュニケーション機能と関連した簡単な表現が含まれた、短い文章を書くことができる。
- キ. 自身の考えを表す多少長い文章を書くことができる。

2. 内容

ア. 言語技能

- (1) ひらがな、かたかなおよび基本語彙に示された漢字を正しく書く。
- (2) コミュニケーション機能と関連した多少長い文を書く。
- (3) メモ、ハガキ、手紙、電子文書、案内文、日記など、日常生活の多様な文章を作成する。
- (4) 日本語の文を読んだり聞いたりして、その中心的な内容を要約したり、文章に書く。
- (5) コンピュータに日本語を入力する。
- (6) インターネットや通信機器を通して日本語で検索と対話などを行う。
- (7) 日本語作文を通じたコミュニケーション能力養成のため、高等学校一般科目・日本語教育課程【別表Ⅰ】に示された「意思疎通基本表現」の項目を中心に、「日本語作文」科目のレベルに合う言語技能を選別して学習する。

イ. 言語材料

- (1) 素材
 - (ア) 日本人の日常生活文化、伝統文化などの理解に助けとなるものとするが、以下の項目を参照し、「日本語作文」科目のレベルに合う内容を選別して構成する。

- ①言語行動および非言語行動に関する内容：表現的特性、あいづち、手ぶり、身ぶりなど
- ②家庭・学校・社会生活に関する内容：あいさつ、家庭内の生活文化、サークル活動、貨幣など
- ③交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情など
- ④衣食住の文化に関する内容：衣服の種類、食べ物の種類、食事時のマナー、住宅事情など
- ⑤環境に関する内容：自然保護など
- ⑥余暇の利用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑦危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など
- ⑧地域文化に関する内容：主な地名、観光名所、庭園など
- ⑨年中行事に関する内容：「おしょうがつ、ひなまつり、おぼん、まつり」など
- ⑩伝統芸術に関する内容：「かぶき、さどろ」など
- ⑪遊びの文化に関する内容：「はなみ、はなび」など
- ⑫大衆文化に関する内容：マンガ、アニメーションなど
- ⑬通過儀礼に関する内容：誕生日、入学など

(イ) 内容の構成にあたっては以下の事項に留意する。

- ①高等学校一般科目「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」と連係して構成する。
- ②学習者の興味、必要性、知的水準などを考慮して、多様な文章を提示する。
- ③実際の生活において用いられうるものとするが、最近の資料を提示する。
- ④普遍的で客観的な内容を提示するが、韓国の文化と比較が可能となるようにする。
- ⑤個人の創意性と人間性を涵養することのできる内容を、段階的に構成する。

(2) 発音および文字

- (ア) 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- (イ) 文字はひらがなとかたかな、漢字を基本とする。
- (ウ) かなは「現代かな遣い」に従うが、文の表現に際してはこの表記法を理解して書くようにする。
- (エ) 表記用漢字は日本の学習用漢字の範囲内で用いるが、人名や地名などの固有名詞に用いる漢字は、例外とする。
- (オ) 韓国語のかな表記は、「国語(韓国語)のかな文字表記法」に従う。ただし、慣用的に用いるものは許容することができる。

(3) 語彙

高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 II】に示された基本語彙を中心に 1,700 語程度を用いるが、固有名詞は例外とする。

(4) 文法

- (ア) 高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」と【別表 II】に示された「基本語彙表」に用いられた文法事項を参考とする。
- (イ) 日本語教育で用いられる現代日本語文法を身につける。
- (ウ) 文章体を主に用いるが、口語体も提示することができる。

(5) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は、コミュニケーション能力を効率的に養うことができるようにするものであるが、高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」を積極的に活用する。

3. 教授・学習方法

- ア. 他の言語技能との統合的な活動を志向する授業で構成する。
- イ. 学習者の興味と自律性を最大限反映させられるよう、授業を計画する。
- ウ. 小グループの構成員同士、協力して学習することが可能となるよう、授業を構成する。
- エ. 能動的な態度で書く学習に参加するよう、授業を計画する。
- オ. かなと基本語彙に示された漢字を書く。
- カ. 意思疎通基本表現を定着させるための書く活動を活用する。
- キ. 実生活に即した書き練習のために、電子文書、メモ、年賀状などの形式を練習する。
- ク. パズル、カルタ、マンガ、案内文、広告文、ワードマップなどを利用して、授業への興味を高める。
- ケ. かな漢字かな交じりの簡単な文を、コンピュータに入力する。
- コ. インターネットで日本語を入力したり、チャットソフトウェアなどを利用して対話を試みる。
- サ. 作文の成果物は、学習者自らが討論などを通して誤りを発見する。
- シ. 韓国の文化に関する文章を翻訳プログラムで翻訳し、誤りを発見して修正する。

4. 評価

ア. 評価指針

- (1) 意思疎通基本表現と関連した表現の正確さを評価することができる。
- (2) 表現の適切さと論理性を根拠として、表現の能力を測定するようにする。
- (3) 学習者の活動状況と、学習発達過程などを観察して評価するようにする。
- (4) 聞いて書く、読んで書くなど、2つ以上の言語技能が統合された評価を行う。
- (5) 妥当性、信頼性、客観性を備えた評価となるようにする。
- (6) 日本語で電子メールを送るなど、書く活動の応用力を作文の評価に反映する。
- (7) 評価結果は個別の指導および学習に活用し、次の教授計画に反映するようにする。

イ. 評価方法

- (1) パズルのタテ、ヨコのカギをコンピュータに入力して評価する。
- (2) タスク活動の結果を、評価者に文字メッセージで送らせ、評価する。
- (3) 基本語彙に示された漢字を正しく書くか、評価する。
- (4) キーワードに与えられた漢字のヒントだけで、文を完成させ、評価する。
- (5) 提示された語彙や漢字の順序を変えて文を完成させ、評価する。
- (6) 文化的内容に関するタスク活動の結果を評価する。
- (7) インターネットで検索した簡単な日本語の文を、いくつかのキーワードでつなげて書かせ、評価する。
- (8) 簡単な説明文などを分担して読んだ後、論理的順序に従って書かせ、評価する。
- (9) パズル、カルタ、案内文、広告文などを作る活動をした後、成果物を評価する。
- (10) 一日の日課、週間計画書、月間計画書などを日本語で作成し、評価する。
- (11) 書き取り、簡単なメモ、経験による簡単な作文をし、評価する。
- (12) 文化的内容に関するタスク活動の結果および活動に参加する態度を評価する。

30. 日本文化

1. 目標

「日本文化」は、日本の日常生活文化および伝統・大衆文化の特徴を理解し、韓国の文化と日本の文化を対照・分析することで、韓国アイデンティティを確かなものにすると同時に、創意性と個人の人間性を涵養する科目である。

「日本文化」の具体的な目標は以下のとおりである。

- ア. 日本人の言語行動文化の特徴を理解し、コミュニケーションの助けとすることができる。
- イ. 日本人の日常生活および行動様式と慣習を理解し、コミュニケーションの助けとすることができる。
- ウ. 文化に関する見解は多様でありうることを理解し、積極的に参与する態度を養う。
- エ. 日本文化と韓国の文化との対照、比較を通して、自身のアイデンティティを確認することができる。
- オ. 時代的要求であるグリーン成長などについて、韓国と日本の現況を比較することができる。

2. 内容

ア. 言語技能

日本語「意思疎通基本表現」の中から、日本人とのコミュニケーション遂行を成功させるために必要な、日本人の日常文化と言語文化の特徴を理解するのに助けとなる機能を選別し、学習する。

イ. 言語材料

(1) 素材

(ア) 日本人の日常生活文化、伝統文化などの理解に助けとなるものとするが、以下の項目を参照し、「日本文化」科目のレベルに合う内容を選別して構成する。

- ①言語行動および非言語行動に関する内容：表現的特性、あいづち、手ぶり、身ぶりなど
- ②家庭生活に関する内容：あいさつ、訪問時のマナー、家庭内の生活文化など
- ③学校生活に関する内容：サークル活動、学校の日程など
- ④社会生活に関する内容：貨幣、プレゼント、交友関係、季節のあいさつなど

- ⑤交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情など
- ⑥衣食住の文化に関する内容：衣服の種類、食べ物の種類、食事時のマナー、住宅事情など
- ⑦環境に関する内容：自然保護、ゴミの分別収集、リサイクル、公害など
- ⑧余暇の利用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑨マスメディアおよび大衆文化に関する内容：新聞、放送、映画、マンガ、アニメーション、ドラマなど
- ⑩危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など
- ⑪地域文化に関する内容：主な地名、観光名所、庭園など
- ⑫年中行事に関する内容：「まつり、おしょうがつ、ひなまつり、おぼん、しちごさん」など
- ⑬伝統芸術に関する内容：「さどろ、いけばな、かぶき、のう、きょうげん」、音楽など
- ⑭遊びの文化に関する内容：「はなみ、はなび、カルタとり」など
- ⑮通過儀礼に関する内容：誕生日、入学、結婚式、成人式、葬式など

(イ) 内容の構成にあたっては以下の事項に留意する。

- ①高等学校一般科目「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」と連係して構成する。
- ②学習者の興味、必要性、知的水準などを考慮して、多様な文章を提示する。
- ③実際の生活において用いられうるものとするが、最近の資料を提示する。
- ④普遍的かつ客観的な内容を提示するが、韓国の文化と比較が可能となるようにする。
- ⑤個人の創意性と人間性を涵養することのできる内容を、段階的に構成する。

(2) 発音および文字

- (ア) 現代日本語の共通語（標準語）の発音とする。
- (イ) 文字はひらがなとかたかな、漢字を基本とする。
- (ウ) かなは「現代かな遣い」に従う。
- (エ) 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で用いるが、人名や地名などの固有名詞に用いる漢字は、例外とする。
- (オ) 韓国語のかな表記は、「国語(韓国語)のかな文字表記法」に従う。ただし、慣用的に用いるものは許容することができる。

(3) 語彙

高等学校一般科目・日本語教育課程【別表Ⅱ】に示された基本語彙を中心に1,700語程度を用いるが、固有名詞は例外とする。

(4) 文法

- (ア) 高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」と【別表 II】に示された「基本語彙表」に用いられた文法事項を参考とする。
- (イ) 日本語教育で用いられる現代日本語文法を身につける。
- (ウ) 文の表現においては日本語の表記法を理解して表現するようにする。

(5) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は、コミュニケーション能力を効率的に養うことができるようにするものであるが、高等学校一般科目・日本語教育課程【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」を積極的に活用する。

3. 教授・学習方法

- ア. 文化情報は学習者の活動を通して発見し、理解するようにする。
- イ. 客観的、肯定的で多様な見解を持つことのできる文化授業を構成する。
- ウ. 学習者の興味と欲求を反映し、学習意欲を高める授業となるよう構成する。
- エ. 小グループの構成員同士、協力して学習することが可能となるよう、授業を構成する。
- オ. 必要に応じて韓国語による文化資料を利用することができる。
- カ. 個人やグループ別に発表、討論、報告、ミニドラマやロールプレイなどの活動を行う。
- キ. ことわざや格言を比較、調査して、表現や思考方式の共通点、違いを理解する。
- ク. 学習テーマについて、アンケートやインターネット検索などで調査し発表する。
- ケ. 日韓両国の大衆文化を調査し、比較・発表する。
- コ. 日本文化についての簡単な内容を読み、韓国の文化と比較して発表する。
- サ. 動画や韓国と日本に関する比較資料など、多様な視聴覚資料を活用する。
- シ. 図表、アンケート、統計、文化関連のホームページ、歌謡、格言などを利用する。

4. 評価

ア. 評価指針

- (1) 文化理解と適用能力に重点を置いて評価するようにする。
- (2) 文化に関するタスク活動に、積極的に参加しているかを評価するようにする。
- (3) 翻訳中心の評価ではなく、タスク中心の評価を行うようにする。
- (4) 妥当性、信頼性、客観性を備えた評価となるようにする。

- (5) 与えられたテーマについての日韓文化の比較を、評価に含めるようにする。
- (6) 評価に対する客観的な評価対象の項目を提示し、評価するようにする。
- (7) 評価結果は個別の指導および学習に活用し、次の教授計画に反映するようにする。

イ. 評価方法

- (1) 文化的脈絡に適合した表現および行動を、ロールプレイなどをさせて評価する。
- (2) 使用頻度が高いことわざ、格言などの意味を話したり、書いて評価する。
- (3) 映像資料を見せ、手ぶりや身ぶりの意味を話したり、書いて評価する。
- (4) 日本の姉妹校などを訪問する旅行計画を立てさせ、評価する。
- (5) グループ別の学習活動などを通して、インターネットサイトを検索し、検索した情報を比較して評価する。
- (6) 与えられたテーマについてキーワードを提示し、カルタゲームなどをして評価する。
- (7) 日常生活文化を調査して発表し、評価する。
- (8) 言語行動文化の特徴を調査して発表し、評価する。
- (9) 韓国と日本の言語行動文化を調査し、比較・発表して評価する。
- (10) タスク解決後の自己評価および学習者間の評価などを積極的に活用する。
- (11) タスク活動に臨む学習者の態度を5択型のシートなどで評価する。
- (12) サイバー空間でコメントをつけさせ、その分析を通して創意性、個人の人間性などを評価する。

i 「弘益人間」とは「広く人間世界に利益を与えること」を指す。

ii 原文は前段の⑥と同じく「～を読み、理解する」となっており、誤りとみられるため、細目に合わせて「～を書く」とした。

iii 原文「상호 행위」。相互作用、インタラクションのこと。

iv 原文「분리 평가」。「個別的要素テスト (discrete point tests)」とも (国立国語研究所編『世界の言語テスト』p. 3、くろしお出版、2006年)。

v 原文「통합 평가」。「統合的テスト (integrative tests)」とも (国立国語研究所編『世界の言語テスト』p. 4、くろしお出版、2006年)。